

# 学習ノートを活用した生徒理解と自己認識に関する研究

佐藤 誠也（岩手県立不來方高等学校）

## 要約

本研究において、学習ノートを活用した自己評価活動の実践による生徒の変容と指導、援助の様子を報告する。予備調査としておこなった第一、第二調査（共にアンケート調査）において、生徒のノート活用、学習相談（質問）、自己評価の実態から、以下の点が明らかになった。

- （１）ノート機能の記録的、再生的機能を重視し活用している。
- （２）別のクラスの友人に質問する場合、同じ部活動の友人に質問している。
- （３）自己評価による振り返りは、全体的印象、思い起こしのレベルで記述している。

第三調査において、２名の生徒に学習ノートを活用した自己評価活動を実践し、記録したものを分析した。その結果、以下の点が明らかになった。

- （１）個に応じた指導、援助により自己認識が深まり、自主的、主体的姿勢が見られた。
- （２）ノートの活用、個別指導の重視は生徒理解に有効で、生徒指導の効果も期待できる。

キーワード：自己認識、自己評価、ノート機能、個別指導、生徒指導

## 研究の背景と目的

生徒が自主的、主体的な学習姿勢を身に付けるには、自ら活動を振り返り、学習活動の改善や軌道修正していく自己評価能力を高め、さらに自己のあり方を考えていく「自己認識」を深める事が重要となる。個々の生徒の興味、関心、進路、習熟度などに応じた生きる力の伸長が求められており、良い点や可能性、進歩の状況などを把握する、個に応じた指導の充実が大切となる。

しかし、一般的に自己評価を狭くとらえ、ほとんど自己採点と同義に解されることや、教師のための学習活動の結果、評定としての意味合いが強くみられることも多い。

安彦<sup>1)</sup>は自己評価が単なる学習活動の自己採点にとどまらず、もっと広く評価の対象をもち、深く評価の次元を含むものだとするならば、それは何よりも「自己認識」の通路だと述べ、「自己認識」へ向けての教育は、必ず自己評価の場を保障しなければならないとしている。また、これまでの自己評価活動に改善、工夫を加え、より効果的な自己評価活動をさせる方向で「自己認識」への教育を実現すべきだとしている。

本来、自己評価とは学習活動の主体者である生徒が自らの学習活動に反映、活用することにより、広く自分自身の向上、成長に活かされるものでなければいけない。そのため教師の役割は、生徒の学習活動に寄り添い、支えながらの指導、援助が必要で、質的、量的にも様々で目指す方向も異なる個々の生徒に対応していく、柔軟で多様な姿勢が求められる。それは最終的には生徒の自主性、主体性の育成と自己改善を促すものでなければいけない。

また、生徒の学習ノートは学習の実態そのもので、学習状況や学習姿勢がどのようなものかを表しており（実証的機能）、これを基にしたノート指導は個々の生徒の状況に応じた助言、指示や激励、共鳴（対話的機能）などが可能で、自己評価活動とうまく組み合わせ活用する事により、学習内容、学習方法の指導をはじめ、一般的な生徒理解、生徒指導に有効な活動となる。

そこで本研究は、学習ノートを活用した自己評価活動を通して、自己認識を深め、自主的、主体的な学習姿勢を促す指導、援助のあり方について事例的に明らかにし、教科学習からできる個に応じた生徒理解、生徒指導への広がりを明らかにしたい。

## 研究方法

### 1 アンケート調査

- （１）調査１ ノートの活用と学習相談、質問にかかわる実態

対象 岩手県立K高等学校2学年 2クラス 68名

時期 2002年 10月中旬

方法 選択式及び記述式の質問紙調査

質問内容

- （ノートに関して）

- ・ 毎時間とっていますか（とっている、ほぼとっている、半々、とらないときが多い、とらない）
- ・ なぜとっていますか（自由記述）
- ・ 心がけていることはありますか（自由記述）
- ・ 家庭学習をするとき、主に何を活用していますか（教科書、ノート、問題集、参考書）

(学習相談、質問に関して)

- ・わからないときの解決方法は何ですか(自分で調べる、教師に相談、友人に相談、そのまま)
- ・今年度、教師に相談にいった回数は(0回、1~2回、3~5回、6~9回、10回以上)
- ・教師に相談、質問しにくい理由はありますか(自由記述)
- ・相談する友人は(クラスも部活動も同じ、同じクラスで部活動が違う、別のクラスで部活動が同じ、クラスも部活動も違う)
- ・友人にはいつ相談していますか(授業中、授業と授業の間、昼休み、放課後学校内、放課後学校外)

(2) 調査2 自己評価にかかわる実態

方法 生物 Bの授業において、終了前5分間で自由記述式の自己評価(感想)を書いてもらった。

## 2 指導、援助の実践

(1) 調査3 学習ノートを活用した自己評価活動

対象授業 岩手県立K高等学校2学年 生物 B

方法(手順)

- 1 フィールドノートで板書事項、生徒の様子などを観察、記録する。
- 2 生徒は授業後、自己評価を学習ノートに記入し、提出する。  
(左ページに板書事項、右ページに自己評価、教師からのコメントを記入)
- 3 昼休み、放課後を利用して学習ノートをもとに個別指導(5~10分)を行い、その様子をテープレコーダーで記録する。

自己評価活動、指導のポイント

- 1 自由記述式(文章法)
  - ・自己を自己によって評価する実感。
  - ・自己評価の中身に関する詳細、情報。
  - ・書くことにより自己を一層深く見つめる。
- 2 コメント(朱書き)を必ず入れる
  - ・教師による他者評価、信頼関係。
- 3 個別指導(相談)の重視
  - ・カウンセリング効果、つまずきに対する検証。

事例1 (岩手県立K高等学校2学年 人文学系 1組 Y男)

対象授業 生物 B(3単位) 8時間

対象生徒の概要

- ・生物はどちらかといえば苦手(考查平均 50~60点)。
- ・進路は大学進学希望だが、具体的な学部、将来の職種は未定。
- ・部活動(硬式野球部)において、中心選手として積極的に活動。

事例2 (岩手県立K高等学校2学年 理数学系 2組 T男)

対象授業 生物 B(4単位) 11時間

対象生徒の概要

- ・生物は好きな科目のひとつ(考查平均 70~80点)。
- ・進路は、医療関係への進学を希望。
- ・部活動(硬式野球部)においては、中心選手だが積極性に欠ける面もみられる。

## これまでの結果、考察

1 調査1

(ノートに関して)

- ・97%の生徒がほぼ毎時間ノートをとっている。
- ・とっている理由は、「テスト勉強や復習するときに活用する」と回答したものが65%と最も多い。
- ・こころがけていることは、「見やすく、わかりやすく書く」と回答したものが62%で最も多い。
- ・家庭学習では「ノート」を活用すると回答したものが40%で最も多い。

生徒は自己の学習活動において、ノートの必要性、重要性を認識している。特に記録的、再生的機能を重視したノート活用をしている。これらのことからノートの効果的な活用方法の検討が必要。

(学習相談、質問に関して)

- ・わからないときの解決方法は、「友人に相談する」と回答したものが52%と最も多く、次に「自分で調べる」が34%であった。
- ・相談する友人が「同じクラス」と回答したものが70%で、そのうち「同じクラブ」の割合は33%であった。相談する友人が「別のクラス」の場合だと80%が「同じクラブ」の友人に相談、質問している。
- ・質問する時間帯は、「授業と授業の間」が40%、放課後「学校内」で31%、「学校外」(電車内、自宅など)が15%であった。

友人に相談するとき、同じ部活動の友人に相談する割合が別のクラスのとくに高いことから、放課後の部活動内において部顧問からの積極的な学習活動への指導、援助のあり方と活用の広がりの検討が必要。

## 2 調査2

(どこに注目して、どのくらいの量を記述できたか)

- ・記述した内容は、「教科内容」38%、「教え方」34%、「授業態度」10%の順位で、深浅レベル<sup>2)</sup>としては大部分が全体的印象、思い起こしの振り返りであった。
- ・記述された量は、平均してノートの3~4行程度である。

自然認識、自己認識を深めるには、個々の生徒に対応した教師からの指導、援助が必要。

## 3 調査3 (指導、援助の実践)

分析の観点

- 1 自己評価の記述による自然認識、自己認識の変容(深浅レベル、内容の変化)がみられたか。
- 2 個別指導の効果(認識の強化、学習状況の把握、学習指導の改善、生徒指導)はみられたか。
- 3 自主的、主体的な姿勢の変化、活動の広がりがみられたか。

今回は、学習に消極的なY男については、部活動を利用して自己認識を深め、主体的な姿勢が見られた活動について、学習に比較的前向きなT男については、個別指導による認識の深まりと生徒理解の様子について紹介する。

### (1)事例1 Y男

生物ノートを利用した自己評価から、部活動ノートを利用した自己評価に切り替える指導を試みた。その理由は自己評価し記述した内容(質的、量的)がある時点からなかなか深まらず、個別指導の会話の中でY男がつまづいている様子がみられたからである。

学習内容の理解により、自己評価の記述も深まっていくと考えていたが、それ以前にY男は「何をどのように書くのか」がわからず、これを改善するため、積極的に取り組んでいる部活動を利用することにより、広い視点から自己を深く見つめたり、考えたりでき、書くことへの苦手意識も取り除くことができると考えた。

- T 書くのは得意でない? T:教師 S:生徒  
S 文章書くのが苦手です  
T どういうこと書いていいかわからないとか?  
S はい、それとなんかまとめられないというか  
T ポイントをしぼっていくと書きやすいと思うけど  
S ポイントがわからないというか  
T 勉強から自分を見つめるのはきつい?  
S ちょっときついですが(笑いながら)  
T 今は勉強から自分を見つめているけども、クラブ活動からだともっと書ける?  
S 書けます  
T 何で書けるかな?  
S 好きなことやっているので、自分を深く見つめられるというか  
T なるほどね、野球から見ればもっと自分の状態が見えるかもしれない?  
S はい

結果的に、量的には3行程度から10行程度の記述が可能となり、質的にも全体的印象、思い起こしレベルからポイント確認、分析的評価レベルに向上した。今後の課題は、学習にフィードバックさせ、活用できるかである。

(学習会の実施を提案)

学校の規則で、考査1週間前になるとテスト最終日まで部活動が停止となる。この期間のある日に、学習ノートからクラブノートへ切り替えたY男から「野球部生物選択者(6名)に生物を教えてほしいので、放課後時間をつくってください」といわれ、ある日に約1時間の学習会を実施した。

学習には消極的な傾向のY男が、他の部員に声をかけ、話をまとめ提案したため実施した。部活動からできる学習指導のあり方、特に考査前や週末、長期休業期間の有効活用を検討。

最後に、指導を通しての自己評価(感想)を書いてもらったものをまとめてみた。

- ・授業の見方が変わった。
- ・復習するようになった。
- ・わからないところを解決できるようになった。
- ・工夫して覚えると覚えやすい。
- ・教師に気軽にわからないところを聞ける。

「クラブノートは自分の思ったことが書けるし、反省もできるので続けていこうと思った。勉強もクラブのこともその日のことを振り返り、反省するという点に関しては同じだと思うので、その日のことをまとめて書くことは大切だと思った。」

(2)事例2 T男

8回目の自己評価の記述。

今日の授業では、ホルモンを中心にやった。ここは自分でも勉強していたので今日の内容はわかった。だけど、血糖量を増加させるホルモンがグルカゴン、糖質コルチコイド、アドレナリンの3つなのはわかったけど、そのほかの甲状腺刺激ホルモンなどがなぜあるのか疑問に思った。

この記述をもとにおこなった個別指導の様子

T これどういうこと?(記述の下線部分を指して)

S あの一、前もらったプリントで今日やった3つのホルモンはわかったんですけど、プリントのすみに書いてある甲状腺刺激ホルモンとチロキシンが何でかわからないです

T チロキシンはどこから分泌される?

S 甲状腺ですか?

T そう、甲状腺。刺激ホルモンは、アドレナリンとかとちょっと働きが違うホルモンなんだよ。刺激ホルモンとは、刺激の前に書いてあるを刺激しているホルモン。だから、甲状腺から分泌されるホルモンではない。刺激ホルモンにより、甲状腺からチロキシンが分泌されるわけ。

S 間接的に関与しているということですか?

自己評価の記述だけでは、記述した内容の意図がつかめなかった。T男の誤解は血糖値を上げるホルモンが記述した3つの他に成長ホルモン、チロキシンの計5つが関与していることと、甲状腺刺激ホルモンの働き、性質を理解していなかったためであることが、個別指導により把握できた。

最後に、指導を通しての自己評価(感想)を書いてもらったものをまとめてみた。

- ・その日の授業の確認ができる。
- ・自分のわかる点、わからない点を見つけられる。
- ・家庭学習では、わからないところを中心にやることができる。
- ・覚えるのに難しいところを、工夫して覚えるようになった。
- ・わからない点を教師に相談しやすくなった。
- ・勉強以外の生活で大切なことを学んだ。

「この1か月で自分のレベルがあがったと感じるので、これからも書き続けていこうと思いました。」

今後の研究の方向

今回の調査、分析をすすめノートを活用した個に応じた学習指導、援助のあり方、特に部活動を利用した学習指導の方法、部顧問の関わり方を明らかにしていきたい。

引用文献

- 1) 安彦忠彦:「教育フォーラム8 自分自身への気づき」、PP11—12、金子書房、1994
- 2) 梶田叡一:「教育フォーラム15 振り返り」、PP8—10、金子書房、1994